

オーケストラ ホワイエへの扉

□33□ 河野 純子 □

♩ 常任指揮者

グナーなどの作曲家の楽曲を多く取り入れて演奏会をすることが常任指揮者・飯守の仕事となってきた。とっつきにくいワーグナーの音楽もすんなりと楽員の演奏の血となり肉となり演奏できるように指導。そして指揮をする姿は舞台裏で見えていても力強いものを感じる。

ヨーロッパで培われた音楽性と知識を常にわれわれに与えてくれ、それがオーケストラ全体の成長に欠かせない。こちらとしても、このような頭脳の指揮者がいると何があっても頼れるのである。楽屋でブラームスの交響曲のフレーズをピアノでさらりと弾いてくれたり、難曲の交響曲をピアノで弾いてお客さまに説明したりすることもある。

また、どのようなことがあ

楽員を育てる「監督」

「監督」とよく似た役割をしているのではないか。

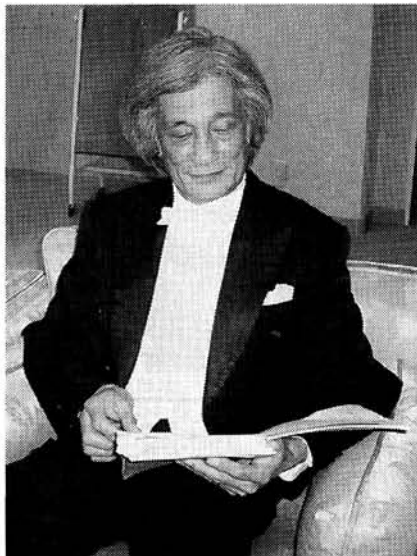
現在、関西フィルハーモニー管弦楽団の常任指揮者は飯守泰次郎である。関西フィルとの結びつきは長く、常任時代を含めると二十年近い付き合いをしている。オペラをはじめ、ドイツ音楽を中心に忠実な心で音楽を作り上げていくのが彼の特徴である。

近年では東京、大阪でワー

っても動じることはなく、知的な解決で音楽を作ってくれたあたりは言葉で言い尽くせない。今後も飯守の心や体に染み込んだ音楽魂は毎日のように研ぎ澄まされ、演奏会でそのものが音となって表現されるであろう。

(関西フィルハーモニー管弦楽団ライブラリアン、斑鳩町在住)

||おわり||



演奏会前の楽屋での飯守泰次郎